

UNIVERSIADE GWANGJU 2015 REPORT 7 (7/5)

7月5日(日)

7:55 LW2x、LM4-が選手村発のバスで忠州ボートコースに向け出発

8:05 LW2x、LM4-が忠州ボートコース到着。クルーごとに選手計量の準備をする。

昨夜予約したランチボックスを各クルーに配布し、ドリンクを準備しました。サポート陣5名もそれぞれの役割につき臨戦態勢万全です。

9:05 LM2xが忠州ボートコースに到着。そのまま選手計量の準備をする。

今大会はバウNo.の受け取りがスタート45分前からなので、それ以前に水上に出ることはできませんが、各クルーエルゴメーター等でしっかりアップをし対応できておりました。また、会場内各国専用のテントが用意されていました。当然日本のものもあり、地元韓国の方々のホスピタリティに改めて感謝の気持ちが生まれました。

各クルー落ち着いてウォーミングアップを済ませ、水上へ出ていきました。

また、この日は光州から今大会日本代表選手団の鈴木大地団長が片道3時間半かけて応援に駆け付けてくださいました。



会場入りするLM2xクルー。



日本チーム専用のテントが！
感謝！！



艇置場にも大きなビジョンが設置されています。

10:30 LW2x 予選

今大会日本代表チームの先陣を切るのは、前回カザン(ロシア)大会を経験、且つその2週間後のU23世界選手権BLW1xで銅メダルを獲得している大石選手(株式会社中部プラントサービス)と、昨年のU23世界選手権BLW2x代表の富田選手(明治大学)のLW2xだ。

定刻通りのスタート。スタートからぐんぐんスピードに乗り、日本、ポーランド、オランダ、ドイツのトップ争いの中、僅かに頭一つ抜け出したのは日本だった。そのまま500mをトップで通過するが、4位までが1.2秒差のまだまだ先がわからない展開。油断はできない。第2クォーターに入ると日本の二人が地力を発揮し2位以下をじりじりと引き離し1000mでは2位ドイツに2.72秒差と差をつけ始める。

第3クォーターに入ると2位以下は混戦模様であったが日本はその前を走り続け1500mは2位に浮上したポーランドに4.23秒差のトップ。アナウンスで「JAPAN」が連呼される中、第4クォーターに入ってもさらに2位ポーランドを引き離しトップでゴール。決勝進出を決めるとともに、日本チームに最高の流れを引き込む大きな大きな仕事を果たした。



日本チームとして最高のスタートを切ってくれたLW2x。
左からB大石選手(中部プラントサービス)、S富田選手(明治大学)

10:42 LM4- 予選

続いて登場したのが、LM4-クルー。昨年のU23世界選手権5位の林選手(日本大学)をストロークとし、世界ジュニア選手権代表経験のある志賀選手(日本大学)、林選手(日本大学)、前回のカザン(ロシア)大会の同種目銅メダリストの兄を持つ荒木選手(日本大学)の4名からなるクルーだ。

スタートからスピードに乗りイタリアとのトップ争いを繰り広げる。しかしここでも抜け出始めたのは日本だった。500mを2位イタリアに1.08秒差をつけトップで通過すると、第2クォーターも追いつがるイタリアをじりじりと引き離し、1000mでは2位イタリアに2.81秒差のトップをキープし続ける。第3クォーターに入ってもリズムが崩れない日本に対し我慢ができなくなったイタリアのドライブが薄くなると差は一気に付き始め、日本の独壇場になってきた。1500mを2位イタリアに4.99秒差までつけて通過すると、イタリアはたまたま減速。代わりに2位にはポーランドが浮上し日本を猛追しようとするが時すでに遅し。ゴールでは2位ポーランドに7.69秒差、3位イタリアには14.92秒差の大差をつけて圧巻のレースの幕を閉じ、LW2xが作ってくれた流れをさらに加速させることになった。



圧倒的なスピードでゴールまで2位以下を引き離し続けたLM4-。
左からB荒木選手、2林選手、3志賀選手、S佐藤選手(いずれも日本大学)

11:24 LM2x 予選

本日最後に登場するのは、前回カザン(ロシア)大会を経験している大塚選手(日本大学)と、大塚選手とともに同世代のトップを走り続ける長田選手(早稲田大学)のLM2xだ。

スタートから激しいトップ争いをイタリアと繰り広げつつも主導権は日本にあった。500mでイタリアと並びながら通過するもトップは0.27秒差で日本だった。第2クォーターも必死に仕掛けてくるイタリアに対し、日本の2人が操る4本のオールがリズムカルに、そして力強くリズムを刻み続け決してトップを譲ることはなかった。第3クォーターに入るとイタリアはさらに上げて何とか日本を捉えようと艇速を上げるが、日本の加速はさらに勢いづきイタリアに思うようにさせることはなかった。1500mは2位イタリアに3.47秒差をつけ、ここからさらにダメ押しとなるスパートをかけると第4クォーターはみるみるイタリアを突き放し勝負を決めそのままゴール。LW2x、LM4-に続き3クルー連続で1位ゴールで決勝進出を決めた。2位にはラストクォーターでイタリアをかわしたカナダが6.6秒差で入った。



スケールの大きな漕ぎで2位以下を寄せ付けなかったLM2x。
左からB大塚選手(日本大学)、S長田選手(早稲田大学)



レース後、メイン会場となる光州からわざわざ応援に駆け付けてくださった日本選手団の鈴木大地団長が選手村を視察され、ボートチームと昼食を共にしてくださいました。

ソウル五輪当時のことや世界と戦う上で工夫したことなどを、ユーモアを交えお話しいただきました。選手たちにとっては思いがけない貴重な経験となったことでしょう。鈴木大地団長、ありがとうございました。

明日7月6日(月)はLW2x及びLM4-の決勝レースが続きますが、さらにチーム一丸となって勝利を目指しますので応援よろしくお願い申し上げます。

7月6日(月)

15:45 LW2x 決勝

16:00 LM4- 決勝